



仙台広瀬川ワイズメンズクラブ 2022年10月号ブリテン

通算第135号 2022.10.26



事務所 〒980-0822 仙台市青葉区立町9-7 仙台YMCA内

TEL: 022-222-7533 FAX: 022-222-2952

Email: otada@mail.tohoku-gakuin.ac.jp 書記 多田 修

ブリテン: <http://ys-east.jimdo.com/bulletin/sendaihirosegawa/>

第1例会: 毎月第3水曜日・第2例会: 毎月第1水曜日 仙台YMCA 18:30

2022—2023年度 主 題 (Theme)

国際会長: (IP) K・Cサミュエル (インド) 「フェロシップとインパクトで次の100年」
アジア太平洋地域会長: (A・P) チェン・チ・ミン (台湾) 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」
東日本区理事: (RD) 佐藤 重良 (甲府21) 「未来に向けて今すぐ行動しよう」
北東部長: 大久保 知宏 (宇都宮) 「クラブのミッションを育てよう」
仙台広瀬川クラブ会長: 菅野 健 「活動の協働を進め、クラブの活性化を図ろう」

今月の聖句

体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るい、濁ってれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある光が消えれば、その暗さはどれほどであろう。

マタイによる福音書 6章 22節～23節

加藤 雄一

巻頭言

兎 年

本野 日出子

来年は兎年、今更恥ずかしいことはないのですが、私の生まれた年です。
自分でもびっくりするくらい、ずいぶん年をとったなあと感じています。
このまま何となく過ごしていいのかと、ちょっぴり不安になることがあります。

ほとんど加齢を対象にしたサプリメントのコマーシャルや、テレビや雑誌・新聞などで、脳トレのようなことをよく見聞きします。来年は私も「脳トレ」ということばに感化されて何かやってみようかと密かに模索しています。

2022~2023 年度 クラブ役員					
会 長	菅野 健	会員増強	加藤 研	ドライバー	佐藤 健吾
副 会 長	加藤 研	E M C	布宮 圭子	ドライバー	増山 和憲
書 記	多田 修	D B C	菅野 健	メネット会長	多田 純子
会 計	多田 修	D B C	村井 伸夫	ブリテン	増山 和憲
副 会 計	本野日出子	ユース	佐藤 剛	ブリテン・聖句	加藤 雄一
会 計 補 佐	多田 純子	ユース	清水川 洋	メネット会	加藤 真紀子
監 査	高篠 伸子	YMCA サービス	門脇 秀知	メネット会	門脇 たまえ
地域奉仕	阿部 松男	YMCA サービス	佐藤 善人	担当主事	増山 和憲
C S	本野日出子				

10月第1例会 強調月間：EMC-E/YES							
在籍者	14名	出席者	5名	メイキャップ	0名	出席率	35%
メネット	2名	ゲスト・ビジター	1名	ニコニコ	6,000円		

◆10月第2例会報告◆
 日 時：10月5日（水）18：30～
 場 所：仙台YMCA立町会館
 参加者：阿部メン、加藤研メン、加藤雄一メン、菅野メン、佐藤剛メン、多田メン、加藤メネット、多田メネット、増山
 ゲスト：小林尚美氏
 （仙台YMCA国際ホテル専門学校）
 ◇開会点鐘から始まった第2例会は、菅野会長の挨拶があり、11月19日（土）の実施に向けて、日本語プレゼンテーションの協議を行いました。ゲストの小林さんより、個人のスピーチとグループのスピーチが行われることと、交流会では、ネパールのダンスと日本語での合唱が予定されていると報告がありました。加藤研メンより、案内状や予算について話され、まだ決まっていない事があるので、10月第1例会で協議されることになりました。
 YMCA報告では、じゃがいも・かぼちゃの販売に関して、箱売りは例年以上に盛況となり、かぼちゃの箱売りを残すのみとなったことが報告されました。
 報告者：増山

◆10月第1例会報告◆
 日 時：10月19日（水）18：30～
 場 所：仙台YMCA立町会館
 参加者：阿部メン、加藤研メン、加藤雄一メン、門脇メン、菅野メン、多田メネット、加藤メネット、増山
 ゲスト：小林尚美氏
 （仙台YMCA国際ホテル専門学校）
 ◇11月のイベントに向けて協議を行いました。ゲストの小林さんより、日本語プレゼンテーションで参加者が何について発表するのか具体的な内容が話され、加藤研メンより、当日の流れや予算案について話されました。記念品として、トートバッグを渡すことになりました。
 11月19日（土）の実施に向けて、協議を重ねていき準備が整ってきました。
 連絡と報告では、多田メネットより、YMCAクリスマスチケットについて話があり、YMCAからの報告では、チャリティゴルフの参加者数について報告がありました。最後に加藤研メンより、様々なことが値上がりをしていき、世界はどうなっていくのか不安であるが、日本語プレゼンテーションを楽しく実施していきたいというお言葉があり閉会となりました。
 報告者：増山

ユースボランティアリーダーズフォーラム報告 9月30日(金)～10月2日(日)
～東京YMCA山中湖センター～

笹倉 千咲希 (宮城学院大学1年)



今回リーダーズフォーラムに参加をし、他の地域で活動するリーダーと話し合いをする中でリーダーの在り方を見直すことができました。1日目の基調講演では、「自分自身について知ることが世界を知ることにつながる」という話をさせていただきました。特に私は、「自分自身を知るときの手掛かりになるものに‘分人’という考え方がある」という話が印象に残っています。これは、人にはそれぞれ「家での私」や「会社での私」のように様々な立場やあり方があり、その場所や時によって何が重視されるかは変わってくるが、それらは全てその人を構成しているものなのであるという考え方です。私はこの話を聞き、その場その場によっていろいろな私がいって当たり前なのだとことに気づかされました。そして、自分と同じように子どもたちにも色々な分人があり、ありのままでもいいのだということを伝え、認めていくことがリーダーに求められることだと考えました。

基調講演を経てのグループでの話し合いでは自分自身の体験談なども交えながら、リーダーと子どもとの関わり、リーダー同士の関わり、リーダーと社会との関わりなど様々な角度からリーダーに何が求められているのかを考えました。結論として、私のグループでは子どもの多様性(分人)を受け入れ、子どもたちにとって居心地の良い環境を作り出すことがYMCAの理想であり、リーダーに求められていることであると考えました。さらに、この理想に近づくためには、「意識⇒行動⇒理解(⇒意識…)」のサイクルが常に繰り返されていくことが必要であると考えました。例えば、意識とは子どものやりたいことをやってもらう、主役は子どもであることを忘れないようにすることなどを指します。行動は意識したことを踏まえて子どものやりたいことが実現されるような環境の整備や手助けをしたり、一人一人の分人を大切に寄り添ったりすることなどを指します。そして、これらを通じて子どものことが少しずつ理解できるのだと考えました。さらに、理解からまた新たに意識するべきことが見つかると考え、これらは常に動き続けるサイクルなのだという結論になりました。話し合いを通して私は、子どものことをすぐに分かった気になるのではなく、常に子どものことを知ろうとし、子どもたちの居場所づくりに何が必要かを考え続けていくことが必要であると感じました。自分自身を知り、子どもたちを知ろうとし、互いに高めあっていけるようなYMCAを目指してこれからも活動していきたいと思いました。最後になりましたが、今回ワイズメンズクラブの方々のご協力のもと、リーダーズフォーラムに参加ができたことを大変うれしく思っております。今回の経験を生かして仙台YMCAの活動がより活発になるよう努めていきたいと思っております。ありがとうございました。

安川 ちあき (東北福祉大学3年)



9月30日から2泊3日でリーダーズフォーラムに参加させていただきました。私は去年の9月頃からYMCAのユースボランティアとして活動しています。活動を始めてから約1年が過ぎ、今回このようなお話をいただけたことをとてもうれしく思います。

山中湖のキャンプ場でカヌーやキャンプファイヤーなどのプログラムのほかに、最終日に行ったグループ発表のための時間が多く設けられました。その時間はグループのメンバーと話し合い、時にはサッカーをしたりキャンプソングを歌ったりして自由に過ごしました。3日間を通して私たちが考え発表する課題は“今ボランティアリーダーに求められるもの”でした。私のグループではまず社会にある課題を付箋に書きだすところから始まり、その解決策を考え、答えを導き出しました。課題に対する答えについてだけでなく、話し合いの中でグループの人たちのいいところを伝え合ったり、同じサッカーリーダーの悩みを共有したりもしました。普段のYMCAでの活動ではなかなか話さないことをたくさん話してきました。そして、私のグループでは、今ボランティアリーダーに求められていることは、物や人に関わり考え続けることと、世界は楽しいことであふれていることを子どもたちに教えることという答えにたどり着きました。いじめや戦争をなくすためにまずは関わること、そして考え、新たな課題を見つけて関わり考え…というように考え続ける力を身につけてほしいと考えました。また、デジタル化や子どもの運動不足が進む中で、私たちは何もなくても楽しいことがたくさんあるということを伝えたいと考えました。それはリーダーズフォーラムに参加して、満天の星空の下に寝転がってプラネタリウムをしたり、いろんなグループの人たちとサッカーをしたりして過ごし、何もない環境でも楽しいことであふれているということを実際に私たちが体験して感じたことです。

3日間を振り返ると、たくさん笑い、たくさん語り合い、たくさんの素敵な思い出が今も鮮明に残っています。とても素敵な時間を過ごすことができました。リーダーズフォーラムで学んだことはほかのリーダーとも共有し、より一層仙台YMCAを盛り上げていきたいです。今回このような機会をくださり本当にありがとうございました。そして、いつも私たちの活動を支えてくださりありがとうございます。今後も応援よろしくお願いします。

ワールドカップ がんばれ！

仙台から熱い応援を届けましょう！



©Koki NAGAHAMA/GEKISAKA

シュミット・ダニエル選手

仙台 YMCA サッカースクール OB



正ゴールキーパーでの出場も
期待される **日本の守護神**
シュミット・ダニエル選手

今や日本サッカー代表の正ゴールキーパーと言っても過言ではないシュミット・ダニエルは小学校2年生の4月に立町Aクラス（水曜日）に入会してきました。その当時父親のシュミット・ケン先生がYMCAで英語教師として働いており、その関係で入会してきました。ケン先生も大柄で身長が2m近くあったと思います。シュミットも2年生当時から背は高く同学年の中でも身長は目立っていましたが、どちらかと言うとマッチ棒のような体格でした。サッカーはと言いますと足元が上手とか足が速いとかキック力があるかと言うとそうではなく、当時、背の高さは目立っていましたが、サッカーのゲーム等でも目立った存在ではありませんでした。但し、周りの子どもたちとは仲が良く相手を思いやる優しさを持っていました。4年生になる際に八幡町から愛子方面に引越しYMCAのサッカークラスに在籍したのは2年間でした。

今年の4月にシュミットの娘二人が体操クラスに入会した事を知り、スタッフ間では移籍するのではと憶測が飛んでおりました。そのような5月にシュミット本人が体操教室を見学に来ており、今帰ったところだとスタッフから報告を受け玄関から出て行く大柄な男性が居たので「シュミット、シュミット」と声をかけると堀越リーダー！名前を覚えてくれていました。大活躍だよね。凄いな！ところで何で仙台に居ると聞いたところ、シーズンオフに合わせて仙台に帰ってきており、その期間YMCAの体操教室に娘二人を入会させたとの事でした。あと、誰リーダー覚えていると尋ねたところ荒木リーダーを覚えているとの事で青葉区の大会でちょくちょく会った覚えがあるとの事でした。サッカー始めたのYMCA何だよねと一言。そのような小僧が日の丸を背負っていることに誇りをもちます。

仙台YMCA健康教育事業部
堀越祥浩

ベガルタ仙台時代に仙台YMCAから贈られた横断幕



シュミット・ダニエル選手（ダン選手）を応援しましょう

仙台広瀬川クラブ メネット会長 多田純子

今年の W 杯は初めて元ベガルタ仙台所属の選手が代表として選出の可能性が大なので、ワクワクドキドキが止まりません。（もしかしたら板倉選手も）

ダン選手は中央大学時代あの川崎フロンターレの強化指定選手でした。

なのに子どもの頃からの憧れのチームのベガルタ仙台を選んでくれました。

入団後、キーパーは他のポジションと違い試合には基本 1 人しか出場の手がかりが得られない事とたまたま怪我人が多くキーパーの控えが居なくなった熊本からオファーがあり、レンタル移籍で熊本に加入後出場機会に恵まれ、活躍し、遠く仙台から活躍を喜んでいました。

その後は、仙台に一時復帰して試合に出場もありましたが、熊本と松本にて大活躍をして、満を持して仙台に復帰。

その後ベガルタのゴールをガッツリ守り、今までのキーパーと違い攻撃の起点となるプレーも評価されて、代表に呼ばれ第 3 キーパーからはじまり今は第 2 に上がり正キーパーも見えてきました。W 杯では出場してもらいたいです。

今回、度々日本代表戦にて応援段幕を代わりに掲示して下さった、ベガサポの方に日本代表サポのカタールに行く方からお話があり段幕がカタールに行く事になりました。

テレビで応援席の片隅に段幕を探す楽しみも出来ました。

ダン選手の活躍を仙台から応援したいです。



上・右： 日本代表の試合



左：ベガルタ仙台時代の横断幕
右下に
仙台 YMCA 名前が入っている

チャリティゴルフ報告

第25回仙台YMCAチャリティゴルフ大会が、10月20日に泉国際ゴルフ倶楽部で開催されました。参加者は、東北の常連の方に大阪・名古屋からの方も加え76名でした。

皆さま晴天の秋空の下で楽しくプレーされ、多くのスポンサーからの賞品を手にとり喜んで来年の再会を約束されていました。

(報告者：菅野 健)



YMCA通信

- ◆国際地域協力募金の一環として販売している『じゃがいも・かぼちゃの販売』ですが、①じゃがいも②玉葱③3種詰め合せの箱売りは完売しました。現在、かぼちゃのばら売りを実施中です。
- ◆10月20日(木) 泉国際ゴルフ倶楽部にてチャリティゴルフが実施されました。当日は、秋の風が心地よく絶好のゴルフ日和となりました。益金は、全国YMCAリーダー研修会の参加費、ウォーターセーフティハンドブックの購入費、子ども支援基金に活用されます。多くの皆様からご支援をいただきありがとうございました。
- ◆子どもたちの冬季プログラム実施に向けて、様々準備を進めています。この冬も多くの子どもたちと活動が出来ることを楽しみにしています。

11月の予定

- ◆11月 2日(水) 仙台広瀬川ワイズメンズクラブ第1・第2合同例会 18:30~
- ◆11月19日(土) 日本語プレゼンテーション

【編集後記】

先日、子どもたちのプログラムで山形県の西蔵王公園に行ってきました。高速道路を走っている道中、山々が鮮やかに色づき、秋の魅力を目と心で感じました。寒さが足早にやってきました。この冬は、コロナとインフルエンザがダブル流行するというニュースが流れています。不安もありますが、まずは心と体の健康をしっかり考えていきたいです。

【K・M】